

先日新型コロナについて昭和村で講演させていただき、内容について簡単ですが、まとめた文書を今回配布させていただきます。

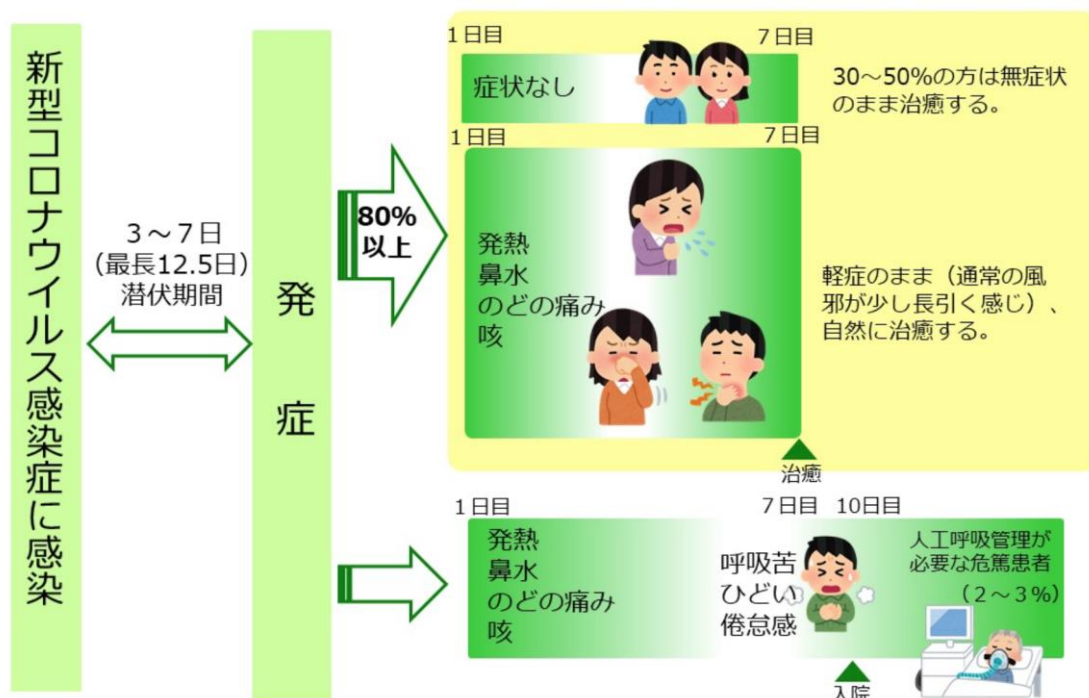
まず、前回の皆さんにお渡しした文書について、半年が過ぎ新しい知見もいくつかありましたが、概ね必要事項はすでに記載されており、変更することはほとんどない様に思われます。

今回の講演でも同様の重複した話が多くあり、もう一度前回の資料を確認していただければと思います。今回強調した事項は以下のとおりです。

1. 感染について

- ① 感染について、感染性は発症2-3日前からある事がわかってきており、発症0.7日前が最も感染性が高い。
- ② 48-62%の感染が無症状者から起きている。
- ③ 発症6日以降の感染は極めて少なかった。
- ④ 約80%の感染者は他人にうつすことはない。
- ⑤ 感染をさせる人は軽症の人に多く、スーパースプレッダーと言われている。ひとりから10人以上の感染者を生むこともある。
- ⑥ 日本を含むアジア、オセアニア、アフリカでは死亡率がヨーロッパ、アメリカに比較して極めて少ないという事がわかってきている。10-50倍

2. 経過について



経過は上記の図の通りですが、ポイントは発症後7日目にあります。上記③に書いた様に6日以降の人に感染させることはほぼありませんが、新型コロナ感染症は7日目を境に病態が異ってきます。当初はウイルス感染による炎症・風邪ですが、その後肺炎、そして強烈な免疫反応(サイトカインストーム)が起きて、自分で自分の体を傷めてしまうような現象が起きます。かなり簡略化していうと、ハエがきて、ハエ叩きで殺せばいいのに、機関銃をあたり構わず撃って自分を撃って自分も死んでしまうというような現象が起きます。ただ、誰が、このような反応を起こすかはコロナに感染して初めてわかります。一方こうした反応を起こしやすい人は高齢者や持病を持つ

人に多いことはわかっています。免疫機能は弱すぎると、感染しやすくなり、一方強すぎてもサイトカインストームを起こしてしまい、あくまでもバランスが重要かと思います。

3. 治療について

経過で書いたように、感染初期とサイトカインストームでは体で起きている現象が異なり、一部改善する薬も使用できるようになりましたが、評価は特効薬というほどではありません。また感染初期に使う薬は、インフルエンザの薬のように症状を一日早く改善させる程度のもので、救命に必要な薬は免疫系の暴走で起こる、サイトカインストームによる間質性肺炎のコントロールです。主に免疫反応を抑える薬が試されています。

4. ワクチンについて

治療について上に述べたように今のところ決定的なものはありません。こうした中ワクチンへの期待は強くなっていると思います。特に来年に控えたオリンピックがある日本や、大統領選挙のあるアメリカはやや前のめりになっている印象です。ワクチンについては効果はインフルエンザでも30-50%程度と言われており、おそらくコロナも50%ぐらいになるかと思います。ただワクチンをする目的は、個人を感染から守るというよりも、社会全体の感染を収束させることを目標にしています。一人が何人に感染させるかという平均値の指標を実行再生産指数といいます。現在全国では1.0-1.2程度で推移していますが、1.0未満になれば自然と消失していく事がわかっています。ワクチンは1.0未満にする事が目標です。ただこれは、私たちの生活活動、経済活動にも比例して大きくなるので以前のような生活は難しいと思われています。ワクチンをすれば解決というわけではないというわけです。

5. 今後のゆくえ

北海道が徐々に増加しています。これから寒くなって、感染者が増える可能性があるのではないかと心配です。冬にはインフルエンザも含めて風邪が増えますが、これは乾燥と冬になって密閉した部屋にいる事が多くなるからではないかと考えられています。冬になってなるべく部屋の湿度を保ち(50%)、換気をして冬を越すようにしましょう。当然ですが手洗い、マスクは継続してください。

6.最後に

当初述べたように、無症状の人からうつる可能性が半分もあるということは、インフルエンザとは大きな違いです。またウイルスが見えない以上、特定の個人を感染から防ぐことは困難です。つまり誰でもかかる可能性があるということになります。一方、全国でもコロナ感染者や家族に対して誹謗、中傷、差別といった事が起こっています。最も弱い感染症と言われているハンセン病という病気がありますが、昭和22年には薬もでき、治療もでき完治するようになりました。しかし、国による差別はその後にも継続し、療養所から出れない生活が平成8年まで続き、多くの不幸を生み出しました。これは砂の器という映画の主題の一つにもなっています。感染症は病原菌が見えないことから、昔は、たたりとか天罰といった解釈がされ、感染した人を排除してきました。そうした間違った考えは科学の進歩した現在でも無意識の中に残っているようです。一方、排除される人から見ると取り返しのつかないものとなります。何よりも新型コロナウイルス感染症を知ることによって、こうした不幸を起こさないように知識社会化をしていく努力が大事です。また、21世紀になってから、新しい感染症が立て続けに起き、今後もおそらく継続するものと考えられています。人、もの、金が国境を超えて世界を自由に動くグローバル化が大きな要因と言われており、今後も同様な事が起きると、考えられます。今回、アジアは感染者が少なかったものの、今後は逆になる可能性もあるわけです。今回の出来事を参考に私たちの生活そのもののあり方を考える契機にする事が重要かと思います。